

2021 年度 9 月入学の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

本来なら対面してお祝いを申し上げるところですが、それがかなわず残念です。ここに、政治学研究科を代表して心からお祝い申し上げます。

昨年度は、コロナ禍の下で感染防止のためほとんどの授業がオンラインでの実施となりました。本年度前期も様々な制約が継続しています。ワクチンの接種もようやく始まり通常の研究環境への復帰が可能になることを期待したいところですが、まだ終息は見通せず、残念ながら当面は慎重な対応が求められそうです。政治学研究科では、適切な研究環境を提供するべく引き続き可能な限りの努力を行ってまいりますので、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

コロナパンデミックは、我々に大きな困難を与えています。それへの対応をめぐっては、日本のみならず世界各国で大きな論争を生んでいることはご存知の通りです。ロックダウンやマスクの着用について激しい対立を生む国が存在します。日本でも、全国一斉休校措置、飲食店への営業自粛要請、GoTo トラベル政策、さらに大学でのリモート講義にも賛否様々な意見が対立してきました。解決策が定かでない事態において、意見対立があるのは当然です。しかし、これらの議論はしばしば、データに基づく冷静な分析を欠いた感情的なものとなっているように見えます。そのような議論からは建設的な対策が生み出されることはないでしょう。必要とされるのは科学的根拠に基づく議論です。しかし、コロナ禍への対応においては、科学的知見に基づいて最も有効な対策を探索するというだけでは解決できない問題もあります。たとえば、パンデミックを抑える切り札として期待されるワクチンですが、すでに EU 域内からの輸出規制が発表されるなど、先進国間で争奪戦の様相を呈しています。果たして、これは公正なことでしょうか？ 貧しい国々は対策から取り残されて良いのでしょうか？ WHO はワクチン接種が公平に行われるべきだと主張しています。問題解決において効率性だけでなく公平性を考慮に入れなければなりません。しかし、何が公平なのか。答えは簡単には出ないでしょう。

現下のコロナ禍は、我々政治学研究科が行ってきた研究教育の重要性を改めて示す機会でもあると考えています。本研究科では、量的、質的データに基づいて現実を分析する経験的方法、現実をモデル化して理論的に検討する数理的方法、規範的な概念を適切に理解し使用するための概念分析の方法を学ぶ3つの方法論科目を必修科目として課し、研究の基礎をしっかりと築くカリキュラムを組んでいます。広い視野の下で問題を認識し、その解決を探求する力を身につけることが出来ると信じています。そして、その力は今回のコロナ禍を超えて、我々の社会が抱える様々な課題の解決にも資するものであると確信します。

新入生の皆さんには、このような困難な状況であるからこそ、一層の努力を重ねて知的体力を磨いて欲しいと思います。研究科としてもそのために最善を尽くしたいと考えています。共に学んでいきましょう。

2021年9月21日  
政治学研究科長  
久米郁男